（様式１－１）

県立土浦第一高等学校附属中学校【総合的な学習の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な学習の時間の第１の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
(2)　実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3)　探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の教育目標

・全人格的な成長を実現する中高６カ年新進路指導計画によって国内外から注目を受ける学校を目指す。
・整理整頓が行き届き、生徒が積極的に学べる場所、楽しく、安心してやるべきことに集中できる場所を目指す。
・プロセス、ガバナンス、コンプライアンス、危機管理、いじめ対応などについて、徹底的な管理を目指す。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

Global Learners Project（グローバルラーナーズプロジェクト）
～人とつながる・知とつながる・社会とつながる～
・課題を発見する力
・発見した課題を分析し、探究する力
・解決に向け、試行錯誤しながら実行できる力

総合的な学習の時間の学習評価

・自ら課題を考え出す力
・情報収集および分析力
・考えをまとめる力
・プレゼンテーション力
・学ぶことの意味、喜び
・自他を大切にする心
・集団の良さ

生徒の実態

・県南地区を中心に、各小学校校のリーダーとして活躍した生徒が多い。
・保護者が熱心に教育し、大変素直で実直に物事に取り組む生徒が多い。
・多様性が感じられる一方で、周囲と折り合いをつけることが得意でない生徒もやや見られる。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

・教育相談、カウンセリングの充実を図る。
・生徒に多様さを尊重する大切さを知るための機会を提供する。
・構成的グループエンカウンターを計画的に実践する。特別に配慮を要する場合は、特別チームを構成し、対応に当たる。

目指す生徒の姿

・自分のことを理解し、人格形成を図り、自主的に多方面の知識と体験に触れ、物事について構造的に考え表現でき、総合的に成長できる生徒
・自己肯定感を持って主体的に行動し、思いやりを持って協働し、多様性を認め国際的視野を持つことができる生徒
・自らの将来像を明確に意識し、より高い進路実現に向けて努力する生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

・附属中生としての「スタイル」、「学び」を定着させる。
・探究学習プログラムⅠでは、地域の調査について調査、研究するフィールドワークに取り組み、その成果を提案（発表）する。また、地域フィールドワークを通して、「自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する」などの基礎的な力を身に付けていく。
・探究実践セミナーⅠでは、英語力を発揮しながら体験的に国際理解を深めたり、異国文化の体験と英語によるコミュニケーション能力を高めるための海外研修プログラムを実施したりする。また、その成果について、ICT 機器を活用しながら情報発信する。
・探究学習プログラムⅡでは、ステップⅠ・課題発見、ステップⅡ・調査・解決、ステップⅢ・未来貢献の３段階のプログラムを構成し、テーマを自分自身で設定して探究学習を行う。
・探究実践セミナーⅡでは、様々なロールモデルに触れる経験を重ねることで、生徒自身のキャリア形成に資する。
・道徳教育では、「考え、議論する道徳」を実践し、生徒が多様な考え方に触れ、自らの生き方を見つめ直す場を意図的に設ける。

学習活動、指導方法等

探究学習プログラムⅠ
・探究入門セミナー（中１）
・kick off meeting（中１）
探究実践セミナーⅠ
・国内語学体験（中１）
・プレ海外探究Ⅰ（中２）
・他校交流（中２）
・国内修学旅行（中３）
・希望者による海外フィールドワーク（中３）
・「卒業研究」発表会
※Ｒ８入学生、保護者を招待し、探究学習の成果を発表する。
探究学習プログラムⅡ
・３段階のプログラムから探究学習を構成する。
探究実践セミナーⅡ　※高校にて実施予定
・海外フィールドワーク（高２志望者）
・東大研究室訪問（高２）

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

・総合的な学習の時間主任と探究学習推進室が中心となり、教務や学年と連携をとりながら計画を進める。
・学習を進めやすくするために、一人一台端末を有効に活用し、活動しやすい環境を整備する。
・中学校１年生から地域フィールドワークを中心に行う。また、ＯＢ・ＯＧをはじめ、大学教員や大学院の学生、留学生や外国人の講師等から協力を得られる環境を整える。
・フィードバックの機会を設け、探究学習がさらに発展するよう、地域の方や保護者の方に協力を依頼する。